

二子玉川のまちづくり研究会 活動報告

二子玉川のまちは、市街地再開発事業により大きく変わり始めています。事業が完了する2015年には、まちの形だけでなく、まちにいる人の構成も大きく変わります。

玉川町会では、既に100年懇話会などにて様々なまちづくりのプロジェクトを行っていますが、来るべきこの変化を次の発展につなげられるように、改めてまちづくりについて考えることにしました。

そこで、2013年9月より100年懇話会などで、まだ活動していない分野に絞って、5回の「まちづくり研究会」を開催し、まちづくりについての意見交換を行いました。これらの活動を通して、地域主体の「二子玉川のこれからのまちづくり」について、多くの住民・関係者の知恵を集め、整理をすることが出来ました。

二子玉川100年懇話会とは……

玉川町会にて「100年繁栄するまちづくり」を実現するため、様々な活動を行う集まりです。まちづくり活動を行う団体の代表者などが、隔月の情報・意見交換やプロジェクトの推進を行っています。プロジェクトは、年度ごとに課題を設け、学識経験者などの協力も得ながら進めています。

100年懇話会が行ってきたプロジェクト

- 2010年度
市街地再開発事業の推進により増加した住民を暖かく受け入れる
→「二子玉川 ものしりマップ 初級編」を作成
- 2011年度
震災に備え、災害時に必要なまちの情報をまとめて伝える
→「二子玉川 震災対策マップ」を作成
- 2012年度
まちの情報発信の最適な方法と内容のあり方を考える
→「街情報プロジェクト」の始動
- 2013年度
まちの情報発信のあり方を考える
→「街情報プロジェクト」にて「掲示板 RE デザイン」を実施
保育環境について考える
→「保育プロジェクト」にて調査を実施
住宅地の交通安全を向上させる
→「ゾーン30」の実現に関する取り組みを実施
緊急時にまちの場所を正確に伝える
→「通り名」の検討を開始



本日 (2014年9月)

まちづくりシンポジウム

- 13:30 開会挨拶 (玉川町会 会長 芳賀孝)
- 【第1部】**
- 13:40 100年懇話会・まちづくり研究会のこれまでの活動 (100年懇話会 司会 中川力太)
- 13:55 報告「二子玉川のこれからのまちづくり」 (100年懇話会 事務局)
- 14:15 講演会「自然環境と生活文化がつながるポートランドの街づくり」 (講師 商い創造研究所 代表取締役 松本大地)
- 15:15 休憩
- 【第2部】**
- 15:45 パネルディスカッション
- 16:50 活動報告セレモニー
- 16:55 閉会挨拶 (玉川町会 企画部長 戸田允易)

二子玉川 100 年懇話会の活動から整理した「二子玉川のこれからのまちづくり」



【みどり・歴史・文化】

- (1) 多摩川や国分寺崖線などの大きな自然に囲まれた地理的特性を生かしながら、河川敷、緑道といった身近な緑も積極的に創出し、これらを活用して「かわ」と「まち」の良好な関係づくりを目指します。
- (2) 大山道を始めとする二子玉川周辺の歴史文化を守り、正しく伝えるために、歴史継承に関連する情報を集め管理する仕組みを作り、さらに伝えていくための人の輪を広げます。
- (3) スポーツやアートイベントなどに多くの人が触れる機会を増やすことで、これらの多様な文化を育む素地を作ります。



【安全・安心】

- (1) より良い交通環境を目指し、住民、商業者、公的機関などのまちの関係者が交通規制への取り組みや歩行空間の整備、交通安全マナー啓発活動などとともにを行うことにより、安全で快適なまちづくりを進めます。
- (2) 来街者など多くの人も行き交うまちの特性を考慮し、災害に強い街並みの形成を進めるとともに、住民、商業者、公的機関などのまちの関係者の連携を深めることにより、効果的な災害対策を進めます。
- (3) 子どもから高齢者までが安心して暮らせるように、日頃から住民同士が助け合える関係づくりを進め、災害や犯罪に強いまちを目指します。



【にぎわい】

- (1) 歴史文化や自然資源のほか、商業的な拠点を巡る回遊ルートの充実を図り、案内表示を設置するなどの環境整備を進めることで、まち全体を行き来したくなる仕組みを作ります。
- (2) 住民だけでなく来街者などの多くの人が気軽に楽しめる仕組みやきっかけをつくり、常に賑わいと活気があるまちを目指します。
- (3) 住民、商業者、公的機関などまちの関係者をはじめとした、二子玉川という街を愛する全ての人々が実施するイベントにおいては、常にお互いが連携できるような賑わいづくりを支える体制を作ります。



【住み心地】

- (1) 誰でも気兼ねなくサークル活動やイベントなどに参加でき、人とのつながりを深めることができる機会を増やすことで、住民が日々の暮らしに楽しみを感じることができるまちにします。
- (2) 快適で利便性の高いまちの仕組みづくりを進めるとともに、次世代に豊かな環境を残すため、持続可能なまちづくりへの取り組みも視野に入れた住環境づくりを進めます。
- (3) どんな人もどんな考え方の人でも受け入れられる土壌を作るとともに、まちに関わる機会を増やし、知ることによってまちに誇りと愛着を持つ人を増やします。



【しごと】

- (1) 複数企業が集まる“働く街”としても発展できるように、職住近接の特徴を活かし、企業の活動と住民の豊かな暮らしが共存共栄できるまちづくりを進め、地域と支え合う企業との交流を深めます。
- (2) 就業者や学生のほか、企業を訪問する来街者などに対しても、地域と触れ合える仕組みやきっかけづくりを進め、まちの活動に企業や学術機関などのちからを活かすことができる関係づくりを進めます。
- (3) 子育て世代やシニア世代などが、時間を工夫しながら自分らしく地域で働ける仕事を増やすことにより、多様な働き方を選択できる環境を整えます。



人と仕組み